

令和6年度 授業改善推進プラン 国語科

①「大田区学習効果測定」結果の分析と課題（昨年度の改善策の分析も含む）

※1、2、3年生はワークテスト及び授業の様子からの分析

1年	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】	促音、拗音の定着が不十分。ひらがなを書き取る力の個人差が大きい。主語、述語を使って文を書く機会が少ないため、正しく助詞を使えない児童がいる。音読も、一つ一つの言葉の意味を捉えたり、正しく読んだりすることに個人差がある。物語文では、登場人物の気持ちを想像しながら読むことができる児童が多い。 すすんで読書をする児童が多い。自分の思いや考えを伝えるだけの児童が多い。相手の話を受けて反応することは苦手。
2年	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】	漢字の書き取りの力の個人差が大きい。正しい表記で文章を書くことができない児童や、自分が書いた文章の見直しが苦手な児童が多い。相手の発言を受けて話をつなぐことが苦手な児童がいる。また、文と文とのつながりのある文章を書いたり、内容のまとまりが分かるように書き表したりできる児童は少ない。 読書や音読などに積極的に取り組む児童は多いが、すすんで自分の考えを話したり書いたりすることが苦手な児童がいる。
3年	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】	既習の漢字を文章で使わず、平仮名に頼ってしまう児童が多い。文章の中で敬体常体を混せて書く児童が少なくない。話や文章の中で語句のまとまりを捉えきれず、誤解したまま読み進めてしまう児童がいる。スピーチ等において、自分で話の内容を組み立てて、分かりやすく伝えることが難しい。文章を読んで理解したことから、感想や考えをもつことは苦手である。 読書が好きな児童は多いが、幅広く読書に親しんでいる児童は少ない。友達の発言を受けて、質問したり、自分の考えを伝えたりすることが難しい児童もいる。
4年	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】	区平均とほぼ同じ結果だった。漢字の読みや書きでは、3年生で習った漢字を読むことに対して、定着が不十分なところがみられる。言葉の学習の中では、主語述語の関係についての苦手意識が目立っている。説明文、物語文の読み取りに関しては、ともに目標ポイントを上回っている。特に物語文の内容の読み取り、説明文の叙述を基に文章を捉えることについては、得意な児童が多い。 読書が好きな児童は多いが、年齢に適した本を選んで読むことが難しい傾向がある。読んで感じたこと、考えたことを共有したり感じ方の違いを捉えたりすることには、楽しんで取り組んでいる。
5年	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】	漢字の書き、言葉の学習などの定着が不十分である。特に、漢字の学習は区の平均を約20ポイント以上、下回っている。また、修飾語についての理解不足が目立つ。漢字の読みの学習は目標値を上回った。内容の中心が明確になるようにスピーチの構成を考えることに課題がある児童が多い。指定の長さで文章を書きまとめること、指示された段落数で書くことなど、条件に合わせて書くことに課題がある。 漢字を書く問題、書く領域の問題、文章を書く問題の無解答（無記入）児童が多かった。
6年	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】	目標値及び区平均は上回ったが、文章の中で文脈に沿った漢字を適切に使ったり、段落の役割を理解して文章を書いたりすることに課題のある児童がいる。 目標値及び区平均は上回ったが、登場人物の心情について、描写を基にとらえることに課題がある児童が多い。 目標値及び区平均を上回ったが、資料から読み取った事実を書いたり、指定の長さで文章を書いたりすることを苦手になっているのか、無回答の割合が多い。

②授業改善策

- 1 年
- ・拗音、促音などの言葉やカタカナ、漢字などを書く機会を毎日1時間は設定し、正しく書く習慣を身に付けさせる。
 - ・体験したこと、経験したことなどの文を書く機会を振り返りの場面を活用して増やす。書き方のきまりを示して正しい書き方を知ることができるようにする。
 - ・話型を示したり、スピーチやスリーヒントクイズなどの活動を継続的に行ったりして、伝える相手を意識した話し方を練習させる。
 - ・語や文のまとまりを意識させながら繰り返し音読させる。音読劇や発表活動において、ICTを活用したり、動作化を取り入れたりすることで、語彙を増やし、言葉の使い方の定着を図る。
- 2 年
- ・漢字練習では、熟語や漢字の入った文章で書く練習に取り組みせ、読み書きと使い方の定着を図る。書いた文章を何度も読み返し、文字や文章の間違いに気づき、正しく読んだり文章を表記したりする時間を確保する。
 - ・話し合いでは、やりとりの言葉のつなぎ方を提示したり、ICTを活用して問題やクイズを出し合ったりする場面を設定して、すすんで話し合う経験を積むことができるようにする。
 - ・事柄の順序を表す語や内容のまとまりに着目しながら繰り返し音読する時間を設定する。自らの体験や身近なことについて文章を書く時間を確保し、自分の考えや感想の視点を与えて書きやすくする。
- 3 年
- ・文の中で漢字を使うことを意識できるように、小テストの形式を工夫する。文章を読み取る際、児童がつまずきそうな言葉をあらかじめ予測し、授業の中で取り上げ、理解を深められるようにする。国語辞典を積極的に使わせ、言葉の定着を図る。
 - ・自分の考えをもちやすくするために、自分の体験や既習の内容を想起しやすいようなワークシートなどを工夫していく。文章を書く際、必要に応じて型を提示する。そうすることで、文章を書くことに対するハードルを下げるだけでなく、学ばせたい表現技法を使えるようにする。
 - ・資料としての本の活用や国語の授業での並行読書などで幅広い読書となるようにする。学んだことをアウトプットできるよう、友達同士で確認し合ったり、スピーチで表現したりできるようにする。
- 4 年
- ・分からない語句が出てきたときは、国語辞典を使って語句の意味を調べたり分かりやすい文で説明したりさせるようにする。漢字の書き方だけでなく、読み方も繰り返し復習し、知識の定着を図る。
 - ・本文に書き込みをさせ、段落相互の関係に着目させる。文章を読んだり書いたりするときには、主語と述語の関係を確認する時間を設ける。書こうとしたことが明確になっているかなど、文章を見直す習慣を付ける。
 - ・文章を書く際は、相手意識や目的意識をはっきりさせ、書く時間だけでなく見直す時間も確保する。そのうえで友達と文章を読み合い、より分かりやすく表現できるようにする。
- 5 年
- ・漢字や言葉の学習においては、習得するための練習時間を設定し、新出内容や既習内容についてプリント学習などに繰り返し取り組んで定着を目指す。学んだ言葉を文中で使うように繰り返し促す。
 - ・話す活動、書く活動で考えを伝え合う機会を作り、考えを整理させる。共有の場面等、小グループで学び合う学習では、ICTも活用し、学びのポイントや自己の力の向上を把握できるようにする。
 - ・学習課題や学習計画を児童と共に確認したり、活動の条件を丁寧に確認したりして、学習への意欲を高める。学び合いの時間を設定し、考えを交流して、共に学ぶ楽しさを感じられる経験を積む。
- 6 年
- ・既習の漢字を使うよう常に声をかけ、見直す時間もとって漢字テスト以外でも漢字を書けるようにする。主語、述語の関係や文の組み立てについても必ず見直すようにさせ、文章を正しく書けるようにする。
 - ・話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉えたり、話し手の考えと比較しながら文に書き表したりスピーチにしたりすることができるよう指導し、自分の考えをまとめる力を高める。
 - ・漢字を自分で調べたり、推敲を重ねたりしながら粘り強く課題に取り組む機会を増やす。
 - ・互いの立場を明確にして話し合いながら考えを広げたり、自分の意見を書いたりする活動を継続して設定していく。